

# 指導資料

## 外国語 第92号



鹿児島県総合教育センター  
令和元年10月発行

対象  
校種

高等学校 特別支援学校

### これから求められる英語科授業の在り方

ー大学入学共通テストを基に考える授業づくりー

生徒が卒業までに身に付けるべき資質・能力を育成するためにどのような授業を目指すべきかについて提示する。また、大学入学共通テストの試行調査等の分析結果と新しい時代に求められる資質・能力について述べる。

#### 1 これからの授業づくり

外国語の学習においては、生徒の学びの過程全体を通して、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得される必要があり、授業においては、内容理解から表現活動へという方向性を意識した取組が求められる。読んだ英文で何が説明されているのか、筆者は何を主張したいのか、自分ならどのように対応するのか、自分はそれに賛成か反対か、といった問題意識をもって英文を読む習慣を付けることが大切である。これらを実現するために必要な内容把握、技能を統合した活動例を紹介する。図1はALTが作成した教材である。ALTの経験に基づく教材を時折使うことで、ALTやその母国への興味・関心が高まり、異文化理解にも役立つ。



When I was a child, I really wanted to have my own swing. In rural Jamaica, there are no public parks. Many families have very large backyards, so they use it as playgrounds for their children. Swings were very popular. All my neighbors, classmates and cousins had swings. I prayed everyday that I would have a swing of my own.

To make a swing, there are some things that you need. First, you need to find the "right tree". The right tree should not be too tall or too short. This tree should be strong and provide a lot of shade from the sun. Second, you will need some rope and one piece of strong board. (中略)

Nicky and I gave Uncle Larry a great big hug. He gave us "Paradise plum candies" as our reward. Then Uncle Larry asked us to help him pick some mangoes to take back with him to Kingston. As we walked towards the mango tree, I saw a beautiful swing glowing in the summer sun. (中略) The tree was perfect and we could eat mangoes and enjoy our swing. My mother was right all along, "Good things come to those who wait". Instead of getting a simple swing that everyone had, my mother and Uncle Larry had made the greatest swing in rural Jamaica at least that's what Nicky and I have told everyone.

図1 ALTの自作教材

## (1) 内容理解に関する活動例

以下に示すような活動の中から、内容理解に必要な活動をレッスンごとに取り捨選択して行い、その後に表現活動に取り組む。

### ア パラグラフごとにタイトルを付ける。

パラグラフの概要把握や要約に役立つ。

例：Part1 In Jamaica, many families have swings in their family backyards.

Part2 You need the “right tree” and some rope and one piece of strong board to make a swing.

### イ 談話標識 (discourse markers) を意識する。

論理の展開を明確に把握することができ、必要な情報を探し出すときの目安として利用することができる。

例：第1段落の“so”の箇所又はその直後を空欄にし、補充する。

### ウ パラグラフの構成を意識する。

パラグラフの構成として、通常トピック・センテンスが冒頭に置かれ、次に例示や具体例を示す支持文がきて、最後にトピック・センテンスを言い換えた結論文がくる。トピック・センテンスに着目すると、パラグラフの論点を的確に理解することができる。

例：第2段落は第1文がトピック・センテンス、第2・3文が支持文となっている。

### エ ジグソー学習に取り組む。

段落または段落内の1文1文を順不同にしておき、ストーリー順に並べ替える。キーワード、パラグラフ、要約文、内容を表す絵や写真を並べ替えてもよい。深い内容理解や論を構成する力の育成が期待できる。グループで取り組むと、情報を共有するために、生徒は互いに英語で説明したり、説明を聞いたりするため、楽しみながらコミュニケーション活動ができる。

### オ 質問を作る。

内容把握に関する英問英答を教師が作成するだけでなく、生徒同士で行うことで、英文をより深く読む習慣が身に付く。

### カ 音読練習をする。

内容を理解の後は、リード&ルックアップ、シャドウイング、ディクテーション、ディクト・コンポジションなどの音読に関する活動を繰り返し行うことで、リスニングやスピーキング力は勿論、読解力の育成、速読の練習にもなる。ネイティブの発音を真似ることも重要である。

## (2) 表現活動の例

内容理解の後の活動として、曾於高校梶谷教諭の実践例を紹介する。

実践例①(図2)は、Chain writing の取組で、書き出しの英文に続けてグループのメンバー(2～4人)が、順に1人1文ずつ書いて文章を完成させていく。限られた時間の中で他の書いた人が文に続けて英文を書かなければならない。また、次に書く人に繋げることを意識しなければならない。即興性が問われるので、1人でまとめた文章を書くよりも難しいことがある。完成後にグループ内で文章を見直し修正すると、お互いにアイディアを出し合い、生徒は自ずと協働学習をすることになる。個人英作文だけでなく、このような活動を時折取り入れることで、活動が単調にならず、生徒は主体的に取り組

実践例②(図3)は、教科書の本文の内容理解をした後に、教科書の内容に関するテーマに対して賛成か反対か理由を含めて書く活動である。教科書の内容理解においては、(1)内容理解に関する活動例のエで紹介したジグソー学習にも取り組んでいる。ジグソー学習をグループごとに取り組ませることで英語による言語活動を充実させている。実践②では、ワークシートで評価基準を明確にし、それに基づいてA～Dで評価しているため、教師の指導に一貫性があり、生徒も取り組みやすい。

What story will come back to you after the chain-writing? Are you excited before starting it?

A 12-year-old Japanese boy has just arrived in Bhutan for his first visit to the country.  
The purpose of his trip was to understand what GNIH was really like .....

He visited a famous place in Bhutan.

The place <sup>was</sup> so beautiful that he <sup>cried</sup> ~~was cry~~.

And, he bought Bhutan's famous food there.

He ate it in the park.

It was very delicious.

Then, he looked at a flower.

It was a very <sup>beautiful</sup> flower.

He wanted to see it with his friend.

So, he <sup>went</sup> ~~to going~~ to see it.

he saw the wife.

After, he came back to Japan.

There are some good points which I think only ~~the~~<sup>this</sup> country has.

First, Japan is <sup>much safer</sup> ~~more safety~~ <sup>country</sup> than any other countries. We feel it is usual, but <sup>good</sup> ~~going~~ <sup>to</sup> other country, we can understand it's unusual and <sup>we're</sup> thankful. Second, Japan has <sup>high</sup> ~~high~~ <sup>advanced</sup> technology.

For instance, foreign tourists come to Japan, and then they often buy Japanese furniture or electrical appliances. For these <sup>(reasons)</sup> ~~points~~, I claim that Japan is the happiest country. Also, I'm proud of it. <sup>(my country)</sup>.

~~~~~~~~~ 使用した合計の語数 ( 84 ) 語 ← 本人が記入すること。

|                              | A | B | C | D | E |
|------------------------------|---|---|---|---|---|
| 書き出しは4マス程度空ける。               | A |   |   |   |   |
| 100 words 程度なら1マスで書ける。       | A |   |   |   |   |
| [結語]⇒[理由]⇒[結び]の構成がある。        | A |   |   |   |   |
| 理由が結語と関連していて説得力がある。          | A |   |   |   |   |
| Discourse Markersは適切に使用している。 | A |   |   |   |   |
| 面白い書き方(乱発)禁止。                | A |   |   |   |   |

【表現初級】 SV, 明らかな使用語彙の不適 A

【表現初級】 基本語つづり, 3単元のズナビ B

【表現中級】 Because SV, But, 3単元はアット A

【表現中級】 単語などに変化・工夫がある A

※自分の視点から書かなくてもいいと思う。

まず、表現にないもの。特に理由が主語でなく、理由の中のことを主語に見ている。これは、理由が主語でなく、理由の中のことを主語に見ている。

图3 实践例②

(※①～⑧は大学入試センター試験からの主な変更点を示す。)

「リーディング」においては、②発音、アクセント、語句整序などを単独で扱う問題は無くなり、「文法・語彙・語法の知識」を長文読解の中で適切に使いこなせるかどうかが問われるよう

になった。③正解が複数あるという問題 (図 4), ④「事実」と「意見」を区別する問題 (図 5) が出題されていることは大きな特徴である。正解を複数選択してもよいという出題形式により、より正確な読みが求められるようになったといえる。

問 3 According to the articles, reading for pleasure has good effects on students' 23. (You may choose more than one option.)

- ① choice of career
- ② educational success
- ③ mental well-being
- ④ views of social media

図 4 正解が複数ある問題

問 3 The other team will oppose the debate topic. In the article, one opinion (not a fact) helpful for that team is that 13.

- ① it is better to teach students how to control their mobile phone use
- ② students should use their mobile phones for daily communication
- ③ the cost of storing students' mobile phones would be too high
- ④ the rule will be applied to all students at the country's primary and middle schools

図 5 「事実」と「意見」を区別する問題

図 5 のように「事実」と「意見」を区別する問題は、英文の内容を正確に読み取るために必要であるだけでなく、ライティングで説得力のある英文を書くためにも必要である。内容理解から表現活動へという方向性を強く意識していることが理解できる。⑤総語数は、センター試験よりも約 900 語増となっており、必要な情報をより早く正確に処理する能力が求められる。

英文の内容面では、ウェブサイトやブログの内容、料理クラブで使うレシピ、ディベートやプレゼンの準備のための文章といった、⑥日常生活に即した設問が目立つ。設問を見ると、必要な情報を探し読みする問題、英文と図表やグラフを絡めた問題が出題されている。

「リスニング」においては、文法・語彙の知識を、音声と結び付けることができるかどうかを試されている。⑦読み上げが 1 回の問題と 2 回の問題が混在するパターンも実施された。1 回しか読み上げられないのは実際の会話を想定したものと予想される。大学入学共通テストでは複数の情報を読み取りながら解答する必要があるため、読み上げ回数は出題意図によって調整されると考えられる。

また、アメリカ英語だけでなく⑧イギリス英語や英語を母国語としない読み上げも見られた。これは、これからのグローバル社会で多様な民族の人々とコミュニケーションを図る可能性が高くなる日本人にとって、必要な対応であるとも考えられる。教師が授業は原則英語で行うことや、生徒同士の英語による言語活動を多く取り入れることも対策として考えられる。

### 3 終わりに

大学入学共通テストにおいても、限られた時間内に多くの英文を読むと同時に、技能を総合的・統合的に活用する力が求められている。これまで同様に、文法・語彙・語法等の知識も求められる。コミュニケーション活動において、思考・判断・表現することを通してこれらの力を総合的に育みたい。

#### ー引用・参考文献ー

○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』平成 30 年 7 月、開隆堂出版

(教科教育研修課 常山 隆光)